



I 令和4年度 国立磐梯青少年交流の家 運営ビジョン



教育理念（ミッション）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要なとされる体験活動（自然体験・社会体験・生活体験等）の適切な場と機会の提供や基本的な生活習慣確立への支援に努め、健康な身体、感性豊かな心や様々な課題に挑戦する意欲と能力をもった21世紀をたくましく生き抜く青少年を育成する。



運営ビジョン



コロナ禍でも目標に向かい職務に精励する職員集団の育成
○6C（コンプライアンス・コミュニケーション・コーポレーション・コンフィデンス・クリエイティブ・コンセクエンス）を遵守した勤務 ○事故絶無 ○3め（けじめ・確かめ・早め）

働き甲斐のある持続可能な施設
○利用される方々や地域の方々等との信頼関係構築 ○豊かなコミュニケーションと創意工夫 ○磐梯に和をもって集う集団所員同士の「連携・連帯・連動（3R）」を絶えず意識する

心と環境の「あったか磐梯」
○丁寧な研修支援や対応 ○利用しやすい環境保持
○「笑顔・あいさつ・思いやり」の徹底

令和4年度各目標値の達成
○閑散期利用者拡大に向けた効果的・戦略的な広報
○「体験の風をおこそう運動」と「早寝早起き朝ごはん国民運動」の計画的な実施

総利用者数70,000人【宿泊45,000人日帰り利用25,000人】
宿泊室稼働率60%以上 利用満足度90%以上達成

アフターコロナを見据えた広報の充実と集客・収入・稼働率「増」！
○できるだけ早期に利用者総数15万人達成

新型コロナウイルス等感染症防止の徹底
地域の防災拠点としての機能の充実

短期～長期の段階に応じた目標等の達成
○第4期中期目標・計画や機構のミッションの具現化と達成
○交流の家の喫緊の課題解決

国立磐梯が持つ
コンテンツの特徴（強み）

ハード面の強み→環境の良さ

- 磐梯朝日国立公園の豊かな自然
- 清掃・整備の行き届いた施設環境
- 関東甲信東北からの好アクセス立地



ソフト面の強み→恵まれた人的資源・質の高い活動プログラム

- 職員・スタッフのチーム力（結束力・ホスピタリティ）
- 豊富な指導人材とプログラム（自然・クラフト・防災・スポーツ等）
- 長年蓄積された多様な団体や組織と幅広く構築されたネットワーク



運営ビジョン達成のためのアプローチ

職務精励



所員や関係スタッフ一人一人が心身ともに健康で、望ましい人間関係のもと、やりがいや生きがいをもって職務に精励する。

指導力向上



所員一人一人のライフステージに合った研修を充実させるとともに、研修指導員・体験活動推進員・法人ボランティアの研修を充実させ、指導力向上を図る。

安心安全



事故絶無を徹底し、利用者に寄り添い、安全・安心を担保した指導・支援に努める。有事を想定して、自治体と連携した防災体制の構築する。危険度の高い活動プログラムをはじめとする職員・指導員の安全研修等を充実させる。

感染症対策



国や機構の示すガイドラインに準拠し、所の実態を踏まえながら新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、業務にあたる。

満足度向上



すべての利用者が満足して笑顔で帰っていただけるように、利用者の声に真摯に耳を傾け、心を込めて対応するとともに、各教育プログラム及び各種サービスの評価・改善に努める。

学校応援



新学習指導要領の趣旨を踏まえた教科指導への代替え等に結びつく新たなプログラムの開発・提案に努め、利用する学校等にカリキュラム・マネジメントへの支援を積極的に行う。

施設の特徴化



国土強靱化政策を受け、地域防災拠点施設としての役割を担う機能の拡充及び防災・減災事業の改善・開発、ジオパーク等の利活用、地域と連携した全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」、地域課題対応事業やSDGs関連事業のさらなる充実、東日本大震災後10年の復興に係る児童・生徒等の元気発信に努めるなど、所や地域の特色を生かした教育事業を積極的に展開する。

地域ぐるみの充実



「体験の風をおこそう運動」「早寝・早起き朝ごはん運動」をより一層計画的に福島県全域並びに山形県等において推進するとともに、令和5年度に向けて福島県実行委員会を立ち上げる。

連携強化



国立施設はもとより、県内外の公立施設等をはじめ地元猪苗代町、県教委、市町村教委、学校、保育園等、官公庁、一般企業や各種団体等とのさらなる連携を図る。磐越道沿線の大学との連携を強化し、学生ボランティアの拡充につなげる。

増収・広報拡充



自己収入の増、広報のさらなる充実と拡大とともに、ホームページの改善等による広報手段により、稼働率の悪い施設の利活用を図る。

利用者に快適な活動を提供し続けるため、美しい環境を維持する。